

透析に限外濾過装置を使用すると便利である。22例について Z-gel 法ならびに 2 抗体法による結果の臨床所見との対比をみたが Z-Gel の優れていたもの 4, 2 抗体法の優れていたもの 3 で大体同じであった。

肺癌, 乳癌, 直腸癌の症例を示した。胸膜のう腫の一例で高値を示す問題の一例をも展示した。

悪性腫瘍患者 100 例について臨床症状を - (寛解),  $\pm$  (中間), + (進行中) とし, CEA - (0-5)  $\pm$  (6-9), + (>10) として対比させると 20, 6.24 と 50 例に両者の一致をみた。33 例は臨床より軽く表現し, 17 例は臨床より重く表現している。しかし年齢的にも臨床症状とは無関係に高くなる傾向がある。

## 7. $^{99m}\text{Tc}$ -MDP による悪性腫瘍骨転移の検索

池田征一郎 森田誠一郎  
工藤 敦嘉 古川 保音  
大竹 久  
(久大・放)

矢 野 潔  
(県立柳川病院・放)

われわれは悪性腫瘍の骨転移の検索のため  $^{99m}\text{Tc}$  MDP による検査を行ってきた。今回は、昭和52年9月より53年1月までの間に当科に来院した悪性腫瘍患者、主として乳癌および肺癌患者について検討した。乳癌においては X-P にて肋骨転移の不明瞭な 2 例を、また腰椎転移の陰性であった 1 例を骨シンチにおいて陽性像として描写することができた。手術後より骨シンチまでの期間は骨シンチ出現に関係なくまた組織像との関係もみとめられなかった。

肺癌においては重症例が多かったために骨の X-P にて腫瘍陰性、骨シンチ陽性像は得られなかった。また組織分類と骨シンチ陽性像との関連もみとめられなかった。

## 8. 放射線照射の骨成長過程に及ぼす影響の実験的研究

境 康彦 古川 保音  
森田誠一郎 大竹 久  
(久大・放)

未熟家兎の 1 側後肢に放射線照射を行い、その影響を核医学的、X 線学的に追求する。

テレコバルト 1,000~8,000 rad の照射後、 $^{99m}\text{Tc}$ -MDP による骨スキャンならびに X 線撮影を経時的に行う。骨スキャンでは 2,000 rad 以上で比較的早期から RI 摂取の低下が認められ、線量の多くなるにつれて変化が強く現われる。線量の少ない群では時間の経過とともに回復するが、多い群ではほとんど回復がみられない。

X 線撮影では、比較的短期間の観察であるが、2,000 rad 以上では成長抑制が認められ、線量が多くなるに従い抑制は高度であった。

## 9. $^{201}\text{Tl}$ -chloride による腫瘍シンチグラフィ — $^{67}\text{Ga}$ -citrate との比較検討—

坂田 博道 中條 政敬  
篠原 慎治  
(鹿大・放)

われわれは従来より、 $^{67}\text{Ga}$ -citrate による悪性腫瘍の診断を行ってきたが、今回は  $^{201}\text{Tl}$ -chloride による腫瘍シンチグラフィを併用し、主として、両核種の腫瘍描出能に関して比較検討を行った。対象は昭和52年5月~12月末までの時点で、 $^{67}\text{Ga}$  および  $^{201}\text{Tl}$  の両者をもとに実施し得た33症例で、内訳は肺癌24例、食道癌5例、サルコイドーシス3例、肺結核1例である。 $^{67}\text{Ga}$  は約 2 mCi 静注後、48時間、 $^{201}\text{Tl}$  は約 2 mCi 静注後、10分、30分、1時間、24時間目に日立製シンチカメラにて撮像した。

$^{67}\text{Ga}$  では肺癌24例中20例 (83%), 食道癌5例中4例 (80%),  $^{201}\text{Tl}$  では各々24例中15例 (63%), 5例中2例 (40%) の陽性率で、 $^{67}\text{Ga}$  が優れていた。 $^{201}\text{Tl}$  で陰性であった肺癌9例のうち4例は